

# 光の子



No.91 2000. 12. 25

- わたしを尋ね求めるものは見だし、心を尽くして求めるものは、  
出会うであろう…と主はいわれる。(エレミヤ 29:13-14)



「雨の日は小さなサンタさん」

え・中島英子

これまでのご支援に感謝し

クリスマスの豊かな祝福をお祈りいたします

社会福祉法人 光の子どもの家

## 「聖夜の灯」

聖夜来る未来豊けき子どもらに

この町の野の真ん中の聖夜の灯

聖夜劇羊を演じ木を演じ

精一杯くぐりて浮かぶかいつぶり

草つららそれも大利根育ちなり

負けん気の強き光を草つらら

白鳥へ少年少女駆けてをり

落合 水尾 (『浮野』主宰)

人間は誰でも憧れを持つ。もち論、手の届かないものへの憧れが多いし、それが美しくもあり悲しくもあり滑稽でもあり……

私は少年の頃、プロ野球の選手に憧れていた。しかも、ジャイアンツでピッチャーをやる予定であった。小学校の五年生の頃だったろうか。当時の担任の関先生が野球の名手であったという事もあったし、私達にとっては、スポーツというのは野球だけだったし、サッカーなどというものの存在すら知らなかったという事もあったから。

そしてその当時、川上、青田、多田、藤本といった選手は、私達の未来の姿を代表していた。何年か後の自分の姿であった。

先日、若い人たちと話をしている時、松竹ロビンズだの毎日オリオンズなどと言ってみたら、「それは旧石器時代の野球ですか。」とからかわれてしまった。

しかし、いずれにしても、私はジャイアンツに入ることに決めていた。その為には私は、寝る時もボールを持って寝ていたし、学校から帰ると、

裏の杉の木の下にヒモで下げた布のボールをコッソコッソと手製のバットでミートする練習を続けた。ヒモでボールを下げると、ボールの軌跡が単純なので、ゴムヒモに替えて、複雑なボールを打つようにしたり、苦心して研究を続けたのであるが、不幸にしてその憧れは現実のものはなかった。

しかしその夢は簡単には捨て切れず、多田、藤本投手、川上、青田選手などの雄姿は、しばらくの間、壁にかけられていた。

しかし、現実にはもともとたわいな憧れもある。

私は、毎月一度、家内を病院へ連れて行く。東京の山手通りを南へ走り中落合二丁目の交差点を左折し、新目白通りの二丁目の信号を左折して進むと聖母病院というのがある。この病院へ通っているのであるが、帰り道は、病院を左折して目白通りに出、そこを左折して山手通りを左折するというコース、つまりぐるっと一廻りする形になる。

その目白通りの北側に小さな一軒の店を家内が発見したのである。豆

を売る店である。その店では、昔ながらのガラスの、取り出し口が向う側にある入れ物を並べて袋づめでなく量り売りをしている様子であった。豆の種類もたくさんあって、殻つきの南京豆、渋皮付の、皮のないものなど、それに青い豆やそら豆のような大きい豆などが、道を通る時に目に入る。店の奥の方には、もつというろいとおいしそうな、珍しい豆などが並んでいるようである。

家内は、この店で買いたいのである。何の豆を買いたいのかわからないが、とに角、あの店で買ってみたいのである。病院の帰り道で、必ず「あ、こゝ、この店」と言っ、振り向くのである。しかし、目白通りはいつも混んでいて、車を止めるわけにはいかないのだ。南長崎一丁目の交差点までは、左側が直進または左折の車と右折する車の二列でぎっしり詰まっ、とても車を止めて豆を買うなどと言う呑気な事は言っていられない。

しかし家内は、その豆屋の前を通るたびに店の中をのぞきこみ、諦め切れない様子である。

病院の帰り道でその豆屋に立ち寄ることは、どうしても無理なのはわかった。そこで、病院へ行く前に、例のコースの逆周りをしてみよう、ということになった。

いつもの角より一つ手前、つまり南長崎一丁目まで左折して、豆屋のすぐ前を通るといふ実験を試してみた。しかし、これも車が多すぎて無理だった。その上次のT字路を左折するのだが、実にやっかいである。

そんな事でその憧れの豆屋で買う事ができないでいる。

「豆なんかどこだって買えるのに。」と言うのだが、「昔風のあの小さい店で買いたいのよ。」とくる。いやはや呆れたものである。どんなにいい豆が並んでいるのかわからないが、彼女のこのささやかな憧れは、できるなら現実のものにしてやりたいとも思う。それに、全く不可能というものでもないし。少なくとも、私のジャイアンツ入りよりは、よっぽど現実的で可能性のある憧れだから。

## 憧れ

エッセイ

彫刻家 中島 陸雄



## クリスマスと言葉

竹花 信恵



街には、絶え間なくクリスマスソングが流れ、色とりどりのデコレーションのもとで、ツリーがきらめいています。私たちより一歩も二歩も街のクリスマス準備であるクリスマス商戦は早く、ごった返す買い物客とともに、慌ただしさの中に、流されていく気がする今日この頃です。

そこで一度立ち止まり、クリスマスの準備が本当にできるような原点に戻らなければならない季節を迎えています。

今年は、十二月三日からクリスマスを待つ期間であるアドベントが始まり、この日からイエス・キリストの降誕の日までの四回の日曜日の間に、クリスマスの準備をしていきます。二十五日が近づくにつれて増えていくのは、ろうそくの光だけではなくありません。クリスマスの装飾が少しずつ整い、それぞれのアドベントの楽しい夕食会では、デザートの手作りクッキーの数が増え、喜びを待つ雰囲気盛り上げていきます。

クリスマスといえば、ケーキとプレゼント……はおなじみですが、私たちのメインは、ベージェントの練習とともに、メッセージであり、ここのおとなたちは、今、そのために一生懸命頭と心をしぼっている頃でしょう。子どもたちが待ち焦

がれているプレゼントはそのメッセージを伝えるためにあり、サンタクロースが登場する直前には、キャンドルサービスがあります。

その中で、子どもたちひとり一人への思いが担当者からそして担当を持たない者から語られ折られます。

子どもたちからのメッセージは、たまたましい言葉の中に思いがぎっしりつまっています。その間をつなぐのは大人たちの讃美歌独唱、合唱。内輪のひとときなので皆さんに聞かせられないのが残念ですが、男子指導員の合唱は、うまくいけばなかなか見事なハーモニーです。

今年は、どんな歌声がひびくのでしょうか。

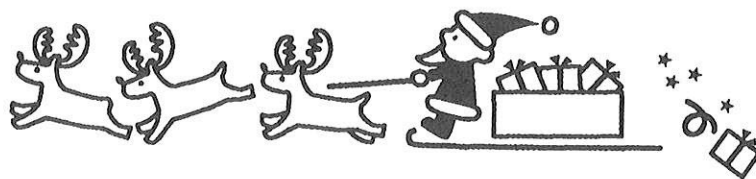
言葉はなんと不思議なものでしょう。言葉だけ、とか、口先だけとか、マイナス場面に使われがちで、私自身、言葉の虚しさにとれることも少なくありません。けれども言葉ひとつで、人は、うれしくなったり、元気になったり、ほんの一言で傷ついたり、ケンカになったり、その力の大きさは、私たちの生活の質に深くかかわっています。

言葉の荒れは生活の荒れに結びついていくのは確かなことでしょう。それと同時に人の生き方までも変えていきます。

メッセージは、想いを言葉で伝えるものです。

大きくなってからこの家にたどり着いてきた子どもたちがいます。どんな言葉をかけられて育ってきたかを思わずにはいられません。出会えてよかった、そのことを真っ先に伝えていきたいと思っています。

この家で今年、九名の子もたちが始めてクリスマスを迎えます。ひとり一人に豊かな祝福がありますように。



Merry X'mas



生来のものぐさから、また一方では、男子たるもの風貌が何だ、問題は中身だろうがといったディレッタンティズムに対する反抗心もあり、長いこと身に着けるものに無頓着であつた。むしろ、旧制高校の弊衣破帽を愛した。大学の教養部で学生運動に身を焦がしていた頃、ほとんど普通の人は履かなくなっていた足袋を履いて自治会室に出掛けていつて

山形大学医学部

学部長 仙道 富士郎

## ネクタイに首しめられて

学者もどきのつぶやき ④⑥

下はすぐ破けてしまふが、足袋は丈夫で長持ちするから便利であつた。学生運動が忙しかったからということもあるが、風呂に長期間入らないこともあつた。久しぶりに公衆浴場に出掛けて、それでもやはり、さっぱりとした気分にはなつたが、同僚に「仙道、痩せたな」と言われたこ

とを、奇妙なことに今でも憶えている。体重計で量ってみると、五八kgであつた。八〇kgを越えている今からは考えられない遠い、遠い昔の話ではある。

大学の住人は、服装に無頓着な人たちと、キチッとネクタイをして背広を着用している人たちの二群に分けられる。威張るわけではないが、勿論、小生は前者に属してきた。ものぐさであるだけでなく、ネクタイで首が締められる感じが何とも嫌なのである。また、小生の属してきた免疫学会という学会は、最近はどうでもないが、学問が早いスピードで進んでいた小生等が学会に入つていつた頃は、かなり自由な雰囲気で、いわゆる偉い先生方もノータイで学会に出席していた。

ところが、四月に学部長に就任してから、状況は一変してしまつた。ノータイを非難されても、それ以上の内容のある学部長なら良い。事実、全国の医学部長会議に出席してみると、そうしたノータイの実力派(?)学部長はいた。しかし、この大学競争の時代に、学部長がだらしない格好で非難されて、後塵を拝するというのは困るというのが正直なところ。気の小さい(?)医学部長は、満を持して、毎日ネクタイ、背

広で出掛けることになる。

心理的な変化は、数ヶ月を経ずして起こつた。以前は教授会などで仕方なくネクタイをしていく時、その辺にあるものをひっ掛けては愚策に「そんなチンドン屋みたいな格好はやめて下さい」と注意され、いつも言い合いになつたが、近頃は次第にネクタイの色が気になるようになった。

上下色違いの上着が三着と、比較的フォーマルな上下同色のものが三着、それをT・P・Oに従つて着られるというような、以前には考えも及ばなかつたことをしなければならぬ。いきおい、それに対応するネクタイも選ばなければならぬ。最近では、なんとテレビのアナウンサーのネクタイの色が気になるようになってしまつた。子どもたちにも聞かれた時の誕生日などの贈り物の希望は、以前は決まらなかつた。スグズであつたが、最近は専らネクタイである。更に厄介なことに、ネクタイとワイシャツのコンビネーションが大事であることを三男の嫁に教えてもらい、何とも混乱するばかりである。

しかし、気にしだすと次々に面白いことも分かつてくるもので、ネクタイもその生地や中に入れてある芯

て募金していただくさつた。

人が与える姿を見るのは本当に感動である。児童養護施設ということわかつて「光の子どもの家」のことはほとんど知らない人たちが次々と募金していただくさつた。与える人たちは何を考えて与えていくのだろう。(少なくともごめんなさい)だろう。(これが私の精一杯)だろうか。(これくらいいいのでは)だろうか。いずれにしても大切なのは与える金額ではないのだ。人思いやり、人の苦しみや悲しみが分かる人程与えるのではないかと思ひながら私は募金箱を持っていた。

夕暮れと共に伊勢丹デパートの明かりが付き、ショーウィンドウのクリスマスツリーが輝き始め、辺り一面クリスマスモードで華やかになつていく中、私は二〇〇年前、神の御子イエス様がお生まれになつたときのことを想像していた。

なんとイエス様は私達が想像もつかないようなもつとも低い場所、馬小屋の飼葉桶の中でお生まれになつたのだ。クリスマスの華やかさからはとうてい考えられない場所である。そして、神が飼葉桶を選ばれた理由は人間がどんなに苦しみ悲しみ、悩んだとしてもイエスが心から人々を慰めることができるようにと思われ

たからではないかと思つた。

今年は娘が自分から進んで私と一緒に街頭募金に立つた。学校に行くのにそんなにたくさんのお金がいるなんて知らなかつた。私にできることとならするということだつた。

息子は先日学校のデイポーションの時間に児童養護施設の人たちと教会学校の礼拝を守っていることと、その人たちが十八才を区切り施設を出て、社会に出ていかなければならないこと、そして自分の置かれてある環境を当たり前だと思つてはいけな、感謝しなければならぬと皆の前で発言したと言つていた。

考えてみれば十六才の息子と十三才の娘は生まれた時から光の子どもの家の子とも達と一緒に育ててきていたに違いない。そのことに心から感謝すると同時にこれからもその良き働きが増々祝福され守られていく様祈りたい。

メリークリスマス！



## 2つの文化に生きる

25

日本キリスト教団東京女子  
バーガー 京子

「御支援、御協力お願いします」今年もクリスマスのこのアドベントの時は、光の子どもの家の子供たちの高校への進学資金のための街頭募金が始まつた。

今年は教会で新しく参加して下さる方もいて、参加人数述べ三十人以上で浦和駅伊勢丹前にて三日間、例年通り賑やかにやらせていただいた。

今年もたくさんの道行く人たちに出会い、この不況とも言われる中でたくさんの方の暖かい御好意をいただいた。そして又、今年程、百円玉、十円玉の貴さを実感し、その重さに感謝したことはなかつた。

それにしても浦和駅周辺の人込みは凄いものがある。電車が駅に着く

度にどつと駅の方から伊勢丹前に人の波が押し寄せる。そしてその時がチャンスとばかりに大声で募金をお願いをする。大体の人が足早にほとんど私たちを無視する状態で通り過ぎる中、一人また一人とふと足を止めてくださる方がいる。

向こうの方から中学生風の女の子が近づいて来る。戸惑いながら小銭を募金箱の中にチャリンと入れた。

「ありがとうございます。」と大きく頭を下げてお礼を言うと、その子は恥ずかしそうに「私も上尾の養護施設にいます。」と言つた。「じゃ、お友達ね。捧げて下さつてありがとうございます。」と言うと、その子はにっこりと笑つてそこを立ち去つていった。私はその子の後ろ姿を見ながら、きつとあの百円玉はあの子にとつても重く、貴く思えてきた。今年は小さな子どもたちの募金者も多かつた。しゃがんで「どうもありがとう。」をかなりの回数やつた気がした。お礼を言われたときの子どもの顔はとて輝いている。いいことをしたという満足感で一杯の笑顔である。修行中らしいお坊さんもそつと足を止めて小銭を入れて下さつた。ぼろぼろになった紙袋をさげてひよつとしたらホームレスの人かもしれないと思える汚れた格好をした男性もだまつ

の違いによつて、しめたときの形が全く違うことに気付くようになった。どうしても結び目が大きくなりすぎるものや、逆に小さくなりすぎるもの等々。また、ネクタイの長さもなかなか難しい。二回巻きつけるウインザノットは、とても長さを調節するのが困難で、最近では完全にあきらめている。何という呼び名かは知らないが、専ら一回巻きつける方式である。これでも長さを調節するのは難しく、まず鏡で調整し、そのあと愚妻に「長さ、これでいいか」と聞く始末である。何とも困つた「おしゃれもどき」老人になつてしまつたものである。

先日は、遂に紫色のワイシャツを自ら望んで買い求めてしまつた。色気狂いになつてしまつた老人は、この紫のワイシャツに合うネクタイと上着のコンビネーションを毎日(?)考えている。







☆ ☆ ☆  
 クリスマスページエント  
 高一 一志

毎年クリスマスページエントをやっているが、今年は小さい子どもが多く、又、中学生で今年初めてページエントをする人がいて、何か新鮮さと不安がある。そして、ハンドベルも新に加わり今年のクリスマスはこれまでとは違った味になりそうだ。

そんなことを機に、イエスさまがお生まれになる事情を、讃美と聖書と振り付けで表現する礼拝として守ってきたページエントの意味を深く考え、〈新しさ〉のあるページエントになるよう力を尽くしたいと思っている。

☆ ☆ ☆  
 沙絵子さんへ  
 高三 将司

待ちに待ったクリスマスです。ここで迎える最後のクリスマスです。来年春からは社会人にならなければなりません。

今、ぼくはとても不安です。こんなぼくが社会人になつてなれるのだから、ぼくはとてつもないクリスマスです。ここで迎える最後のクリスマスです。来年春からは社会人にならなければなりません。

でも、みんな酷いよ！。明るい昼の特に休日などは、大好きなみんなから蹴られたり、ボールをぶつけられたり・・。

今年も四回も頭の中が粉々になつて暗い夜が何回も続いたものだ。せつなくみんなの役に立ちたいと思っているのに・・淋しいことだよ。もつと私を大切にしよう。

ホラ、庭の大きな櫓にクリスマスものの灯りが点滅して、きれいだね。ものを大切にそんな美しい心を皆が持つことができますように。メリークリスマス！

☆ ☆ ☆  
 萌季へ  
 岩崎 まり子

こうしてこの場でメッセージをやりとりするのは最後になってしまつたということが本当に嘘のようです。そのくらいあなたと過ごした時間は長く、私がここで迎えたはじめての夏休みも、クリスマスも、お正月も・・その全てが萌季と一緒にしました。

いろいろなことがありました。私ができることは何もなかったけれど、萌季にはたくさん助けられました。慣れていたなくて不器用に抱



☆ ☆ ☆  
 クリスマスページエント  
 高一 一志

毎年クリスマスページエントをやっているが、今年は小さい子どもが多く、又、中学生で今年初めてページエントをする人がいて、何か新鮮さと不安がある。そして、ハンドベルも新に加わり今年のクリスマスはこれまでとは違った味になりそうだ。

そんなことを機に、イエスさまがお生まれになる事情を、讃美と聖書と振り付けで表現する礼拝として守ってきたページエントの意味を深く考え、〈新しさ〉のあるページエントになるよう力を尽くしたいと思っている。

☆ ☆ ☆  
 沙絵子さんへ  
 高三 将司

待ちに待ったクリスマスです。ここで迎える最後のクリスマスです。来年春からは社会人にならなければなりません。

今、ぼくはとても不安です。こんなぼくが社会人になつてなれるのだから、ぼくはとてつもないクリスマスです。ここで迎える最後のクリスマスです。来年春からは社会人にならなければなりません。

でも、みんな酷いよ！。明るい昼の特に休日などは、大好きなみんなから蹴られたり、ボールをぶつけられたり・・。

今年も四回も頭の中が粉々になつて暗い夜が何回も続いたものだ。せつなくみんなの役に立ちたいと思っているのに・・淋しいことだよ。もつと私を大切にしよう。

ホラ、庭の大きな櫓にクリスマスものの灯りが点滅して、きれいだね。ものを大切にそんな美しい心を皆が持つことができますように。メリークリスマス！

☆ ☆ ☆  
 萌季へ  
 岩崎 まり子

こうしてこの場でメッセージをやりとりするのは最後になってしまつたということが本当に嘘のようです。そのくらいあなたと過ごした時間は長く、私がここで迎えたはじめての夏休みも、クリスマスも、お正月も・・その全てが萌季と一緒にしました。

いろいろなことがありました。私ができることは何もなかったけれど、萌季にはたくさん助けられました。慣れていたなくて不器用に抱

ろうか・・。考えるととても不安になつてしまふ。

ここでの残り少ない生活を大切にしたいと心から思っている。そうすることが社会人になることにつながっていくのだと思っています。

服部さん、そしてぼくを支えてくれたまわりの仲間や大人たち・・。今まで我慢してくれて本当にありがとう。そして、残りの生活を素晴らしいものにするために、よろしくお祈りします。

☆ ☆ ☆  
 将司へ  
 服部 沙絵子

メリークリスマス！

将司と迎えるはじめてのクリスマス、そして一緒に迎える最後のクリスマス。嬉しい思い出と少し淋しい気持ちで複雑です。

君と出会って今日まで、短い間でしたが、様々なことがありましたね。君が困り果てたとき、私は何もできなくて立ちすくんでいました。

でも、そんな時に君を守り支えてくれたたくさんの友情や愛、そしてエール・・。そんな仲間や大人たちに励まされてここまで来ることができた。

君と出会って今日まで、短い間でしたが、様々なことがありましたね。君が困り果てたとき、私は何もできなくて立ちすくんでいました。

でも、そんな時に君を守り支えてくれたたくさんの友情や愛、そしてエール・・。そんな仲間や大人たちに励まされてここまで来ることができた。

かれたり、おんぶされたりした小さかった萌季。あのときの思い出は、今も私の中に強く残っています。

私は萌季の不器用なところが大好きです。人とのつき合いで器用に立ち回る人より、どうしようもない自分を抱えて悩みながら生きている人の方が深く人となることができるとは思うからです。

死にたくなくらい傷つけられるのも人間関係だけれど、それを救い、支えてくれるのも人間関係です。

私は、いつでも、いつまでも萌季を応援し続けます。いつでも声をかけて下さい。

最後の、取り敢えず最後のクリスマスが、思いの一番深いところではないまでも輝くように・・と願います。

☆ ☆ ☆  
 クリスマス  
 高三 萌季

光の子どもの家で迎えるクリスマスも今年で十六回目になります。

ここで過ごした十六年間はとてつもなく感じられたり、過ぎてみるとあっという間のようにも思えます。

嫌なことや悲しいこと、淋しかったことなどマイナスな面を考えると数え切れないほどです。

でも、それ以上に楽しく嬉しいこともたくさんありました。そのうち

ろうか・・。考えるととても不安になつてしまふ。

ここでの残り少ない生活を大切にしたいと心から思っている。そうすることが社会人になることにつながっていくのだと思っています。

服部さん、そしてぼくを支えてくれたまわりの仲間や大人たち・・。今まで我慢してくれて本当にありがとう。そして、残りの生活を素晴らしいものにするために、よろしくお祈りします。

☆ ☆ ☆  
 将司へ  
 服部 沙絵子

メリークリスマス！

将司と迎えるはじめてのクリスマス、そして一緒に迎える最後のクリスマス。嬉しい思い出と少し淋しい気持ちで複雑です。

君と出会って今日まで、短い間でしたが、様々なことがありましたね。君が困り果てたとき、私は何もできなくて立ちすくんでいました。

でも、そんな時に君を守り支えてくれたたくさんの友情や愛、そしてエール・・。そんな仲間や大人たちに励まされてここまで来ることができた。

君と出会って今日まで、短い間でしたが、様々なことがありましたね。君が困り果てたとき、私は何もできなくて立ちすくんでいました。

でも、そんな時に君を守り支えてくれたたくさんの友情や愛、そしてエール・・。そんな仲間や大人たちに励まされてここまで来ることができた。

かれたり、おんぶされたりした小さかった萌季。あのときの思い出は、今も私の中に強く残っています。

私は萌季の不器用なところが大好きです。人とのつき合いで器用に立ち回る人より、どうしようもない自分を抱えて悩みながら生きている人の方が深く人となることができるとは思うからです。

死にたくなくらい傷つけられるのも人間関係だけれど、それを救い、支えてくれるのも人間関係です。

私は、いつでも、いつまでも萌季を応援し続けます。いつでも声をかけて下さい。

最後の、取り敢えず最後のクリスマスが、思いの一番深いところではないまでも輝くように・・と願います。

☆ ☆ ☆  
 クリスマス  
 高三 萌季

光の子どもの家で迎えるクリスマスも今年で十六回目になります。

ここで過ごした十六年間はとてつもなく感じられたり、過ぎてみるとあっという間のようにも思えます。

嫌なことや悲しいこと、淋しかったことなどマイナスな面を考えると数え切れないほどです。

でも、それ以上に楽しく嬉しいこともたくさんありました。そのうち



の一番は何といつてもクリスマスです。そして、今年は私のここでの最後のクリスマスになります。

ここを出てたくさんの困難や厳しさがあることを先輩たちの様子などから予想できます。そんな時に、元気を出せるように、美しい思い出に、最高の経験になるようなクリスマスを作りたいと思っています。

☆ ☆ ☆  
 クリスマス  
 中二 信一

ぼくはクリスマスがとても好きです。それは、想像することの多い時間だからです。

ページエントの練習をしている時も、イエス様はこんな風に生まれた

たんだなあ、と、私は羨ましいような気がしたこともあります。

残りの時間、そんな人々に感謝できるような日々になりたいですね。

君は、多くの才能を持っているんですよ。だから、もつと自分に誇りを持って、自信を持って、君の人生を切り拓いていってください。

これからの人生はここでの生活よりもずっと長く厳しいでしょう。

どんなことがあっても自分を信じ、君のことを決して見捨てたりせず、心から大切に思い、応援している人々がいることを決して忘れないでね。

最後のここでのクリスマス。一緒に素晴らしいものにしましょう。

何よりも神さまが君を愛し守って下さるだろうと、この頃思えるようになりました。だから、君も・・ね。



☆ ☆ ☆  
 クリスマスに  
 五木田 供三

今年もクリスマスがきて、みんなにメッセージを送ることになった。

私はこの庭に立って、あたりを美しく照らす庭園灯だよ。

仲間の三人とずっと立って、暗くなつてしまふ庭を照らしている。私が照らさなかつたら、みんなが家に辿り着くまでに何回かは置き、怪我をするかも知れないよ。私はみんなが大好きだから、そうならないように頑張つて暗い夜の間中照らし続け

のか、博士はどんな思いで旅をしたのだろう、などと想像するのです。

そんなページエントに力いっぱい打ち込みたいと思っています。

でも、ぼくだけが頑張つても、みんなが力を抜いたら困ります。

十二月二十五日の夜。大勢のお客さんの前ですのだから少し緊張もします。でも、必ず、輝くようなクリスマスページエントをみんなに上げたいと今から力が入ります。

今年も全体の半数を占める中高生が中心です。ステキなクリスマスページェントにしてくれると信じています。恥ずかしさや照れくさいことなどあっても、どの子どもたちの心の中に、しっかりとクリスマスは大切なものとして収まっています、子ども期の美しい思い出にしたい・・・という願いもあるのだらうと感じます。

倉澤 智子

子どもたちの季節 仙道家

冬の訪れを感じさせる冷たい風が吹くある日のことです。自信に満ちた表情で生き生きと駆け回る裕がそこにいました。それは、私が生活を共にした一年間にはあまり見ることの出来なかった光景だっただけに少し驚いてしまいました。

一年前の十一月に私は、これから始まる子どもとの生活に期待と少々不安と胸に秘め、仙道家の一員となりました。

彼はお洒落な黄色のボタンダウンシャツをまとい、照れ隠しの居眠りで私を歓迎してくれました。

『強い男の子になってほしいな...』いつでも心の中にはこの思いがあったのですが、顔をしかくちやにして泣き続けたり、眠りだしても不安で



何度も目を覚ましてしまう姿を見るたびに、まだまだ成長には時間がかかるなと感じていました。

そんな彼を飛躍的に成長させるきっかけがあったのです。

もともと体を動かすことが大好きで、興味を持っていたこともあり、幼稚園の体操クラブに入会しました。担当の藤本保母が休みの木曜日のことです。藤本保母から元気な裕の姿を是非見てほしいということで体操クラブの見学に幼稚園へと車を走らせました。

そこで見た裕は、自信に満ちていて、一番元気に、一番楽しそうに体を弾ませていました。

『だんだんと強い男の子になって

きたな』そう実感することができました。

帰り道、つないだ手から逞しさが伝わり成長を嬉しく思うとともに、もともとつと成長する裕をいつまでも応援していきたいと思いました。

中川 昭雄

原田家日記

待降節を迎え、心静かにクリスマスの準備を進める今日この頃です。

高三の将司が、三度目にして、やっと就職の内定を貰いました。

不採用の通知が来たことが朝の打合わせで報告される度に、みんな「ハァ」と嘆息をついていました。

でも、いちばんショックを受けていたのは、他ならぬ将司自身だったに違いありません。

将司は、十六年前、「光の子ども家」ができて最初に入所してきた子です。

小さい頃から図画工作が好きでまた上手でした。その特技を未来に生かすべく工業高校に進学し、今日まで知識を積み、腕に磨きをかけてきました。しかし、彼が最も苦手とするのは「面接試験」です。デリケートな彼は、初対面の人と目と目を合わせて話をするのができません。



梶原 完

いい腕を持ちながら、そこで損をしてきました。

やつとの思いで掴んだ「内定」。これで一安心です。

しかし、次は卒業までのアルバイト探しに取り組まなくてはなりません。卒後の彼を経済的に支えてくれる人はいないからです。残り少ない日数、世の中の厳しさと共に、私たちがいつでも応援しているということとを伝えたいと思います。

# プ・リ・ズ・ム

光の中で

佐藤家

クリスマスの喜びを共に分かち合いたいと思います。

私にとってはじめての光の子ども家での暮らしが続き、ここで最も大切と言われているクリスマスを迎える準備に入っております。

四歳の静一も光の子どもの家で初めてのクリスマスを迎えます。いたずらの天才は、毎日注意されてもめげず、新たなたずらに全力を挙げています。お昼を食べてすぐ、「おやつは？」とぐずり、お菓子をせしめる名人でもあります。

そんな静一が、最近就寝前のひととき、「お利口だったらサンタさん来る？」と聞いてきます。「もちろん、お利口だったからね。」と言ったからでしょうか、サンタさんが来るのを心待ちにしているこの頃です。

サンタがやって来るというファンタジーを、是非経験し心に刻んで欲しいと願っています。

これまで、何となくクリスマスを過ごしてきた私が、今年はそれまで

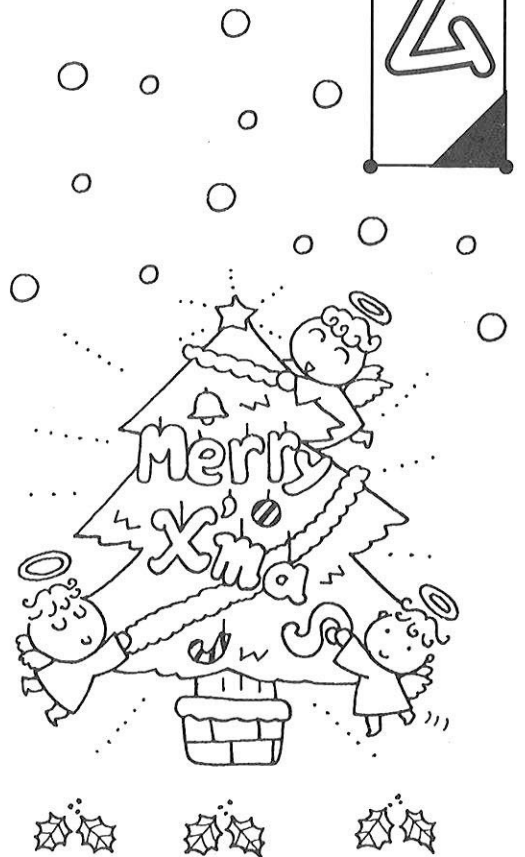
の日々を、子どもたちと同じようにドキドキしながら待っているのです。アドヴェントという言葉も私にとって初めて出会う言葉です。

第一アドヴェントの夕べの集いで、子どもと大人のハンドベルの演奏がありました。しかし、その演奏の間中、きよろきよろといったずらを探す静一には、何も聞こえず、何事もなような様子でした。

生後、彼は親からも、そして誰からも、愛されたり受け入れられた経験もしていなかったのです。感動を共感するという、人のこころが育つために重要な経験を静一は一切持たずにここまで育っていたのです。

しかし、第一アドヴェントがはじまる前の礼拝の時、全ての照明が消され、アドヴェントクランツに点されたキャンドル一本の灯りが、ぼんやりとあたりを照らし、目が慣れてくるまでの間、静一はその微妙な明りの変化に驚いたように、そして不思議そうに、穏やかな灯りを味わうように目を輝かせていました。

感動を共鳴するきっかけを持ち始



めたのでしょうか。

今年のクリスマス。静一の心を打つような感動を共にするために、心を遣い、精一杯準備していきたいと励んでいます。

市川 美穂

河のほとりで 倉澤家

クリスマスおめでとうございます。

十六回目のクリスマスを子どもたちと共に迎える準備にいそしんでいます。これまで十五年、クリスマスページェントを行ってきました。

小さい子どもたちばかりの頃はページェントを仕上げるのに大騒ぎだったことを覚えています。しかし、子どもたちが成長したらこれもまた大変。思春期真っ直中の中高生たちに、

たくさんのお客様の前で、マリアやヨセフ、天使に博士などを演じて貰うのは容易なことではありません。練習に参加しない者、練習中のトラブル・・・など多くのエピソードがあります。それでも毎年、十二月二十五日には無事にページェントが行われ、多くのお客様と感動を共にしました。

第一アドヴェントの夜、ページェントの配役の発表がありました。

高二の車紀は三年連続貫禄の天使長。高一の沙恵はハンドベルに挑戦。初めてのクリスマスの幸子と美深は聖歌隊に決定し、練習も始まりまし



## 隣る人

菅原 哲男

児童養護施設「光の子どもの家」は、自らの生を喜び受け入れる筈の家族・親たちからも、それを拒否された子どもたちが、人と人との関係を丁寧形成しながら、生きることを意味を、人の在りようを経験することを願ってつくられた。

当時、昌子が社会に出る日まで、既に半年を切っていて職員たちも焦りはじめていた。

昌子の父母は生後間もなく離別。乳児院を経て二歳で入所してきた。竹花がインターワークをし、その後八年間担当した保母が結婚退職し、その後の担当保母が次々に結婚退職し、関係が出来上がった頃に退職という不運が重なった。

昌子が中学生になった頃から、いつの間にかふいどこかへ行ってしまういつ戻ってくるのか分からなくなる。それがしばしばあった。夕食時間になり、捜しても見あたらず、電話で友人宅で遊んでいることが分かって帰り促すことが珍しいことではなかった。

光の子どもの家では、特に全体的な決まり事はなるべくつくらず、最

小限の決まり事は守ることで、個人の生活とみんなでする生活のバランスをとるようにしてきた。

だから、放課後に帰宅して友人宅に遊びに行くのに決まりはなかった。ただ、担当者か職員の誰かに、どこかの誰のところに遊びに行き、いつ帰るのかと知らせなければいけません。

ところが昌子にはこれができない。気が向くままにどこかへ行ってしまうのである。夕食時間ぐらいいはみんな揃って「いただきます」をすることにしていて、もう帰ってくるかも知れないからと、少し待つ。幼児は、早く食べたいものだからぐずったり騒いだり。その場が気まずくなり苛立つのである。人の生活のそんな些細なことが大変な事なことである。ことをずいぶん長いことをかけて伝えようとみんな心を尽くしてきていたが、高校を卒業する間近になっても昌子には伝わらないようであった。商業高校に行っていた昌子は、部活動をしていなかった。中学時代にバレーボール部に入ったが数ヶ月後には帰宅部といわれるようなクラブに替わっていて、中高の六年間、運

動・文化両面に亘って相当な能力を持つていながら、部活動らしいことをしてきていなかったのである。

だから、午後三時頃には帰宅していたり、夕食ぎりぎりのこともあった。放課後以降の生活は一定していなかった。だから、せめて、夕食時間を午後の生活リズムの区切りにしたかったこともあり、高校生活の最大の課題が、「夕食に間に合わないことが続いたら連絡すること」だった。それが殆どできていなかったのである。

もう後半で社会に出さなければならぬ三年生の秋、ここが彼らの実家になるようにと願ひながら暮らしてきていたのだが、「ここでは昌子が社会人になるための基本も伝えることができなかった。あと半年、他の施設で社会人になるための訓練をお願いするかどうか」と提案した。最初、昌子は提案を受け入れなかった。しかし、日取りや場所など具体的に拒否しなかった。

中学生以上に集まってもいい、事情を説明し、意見や考えを聞いた。みんなうなだれて沈黙の時間が長く続いた。

暫くして、実母にひどい虐待を受けて昌子と同じ年に入所していた萌季が立ち上がり、「昌子をここにおいて下さい。私たちの学年はたくさ

んの仲間がいたが、それぞれ別れてしまい、今は昌子と二人しか居ない。だから、一緒に卒業したい。それまでここに置いて欲しい、私たちも頑張るから、大人のみんなももう一度機会をつくり一緒に頑張りたい！」と叫ぶように訴えて泣き崩れた。声をあげて泣き続けた。床に跪いて頭を下げた。

すると、みんなが口々に、そうして欲しいと訴えはじめ、昌子も泣き濡れて「お願いします。今度こそみんなを大事にするから……ここで生活をして良かったと思われようように頑張るから……」と。

そこにいたみんなが泣いていた。もう一度、やってみることにし、その場を収め解散しようとする、昌子がもう一度立ち、「悪かった、今から卒業するまでのこの時間をみんなから貰ったものだと思いたい。大事にする、ありがとう」と謝罪と決意を表明した。

昌子も萌季も生まれて間もなく酷い虐待を受けて命からがらここにやってきた子どもであった。そんな子どもたちが、隣に人がいることを発見し、人との別れを悲しみ、痛む心が育っていたのである。被虐待の子どもたちへの関わりと経時の目的を示されたのであった。

昌子も萌季も生まれて間もなく酷い虐待を受けて命からがらここにやってきた子どもであった。そんな子どもたちが、隣に人がいることを発見し、人との別れを悲しみ、痛む心が育っていたのである。被虐待の子どもたちへの関わりと経時の目的を示されたのであった。

現場から

## 続・光の子らしく

③

岩崎 まり子

心からクリスマスの祝福をお祈りいたします。皆さま、お元気でいらっしやいますか。

こちらも、朝など洗濯物を干す手がかじかんで、洗濯ばさみがうまく扱えなくなってしまうたり、干したそばからバリバリに凍ってしまったりしています。

ただ、この時期は空がとてもきれいです。夕焼けが一段落し、夜の闇が空を覆う前の一時、輝く宵の明星を見上げ、

「きれいだねえ。」

と言いつつながら家路につくのは、なかなかいいものです。

ここ、光の子どもの家で迎えるクリスマスも十六回目となりましたが、今年、はじめてのクリスマスを過ご

す子どもたちもいます。大きなまあるい目が優しげに笑う憲一もそのひとりです。

憲一は、子どもの世話どころではない親の元で育ちました。自分で自分の食事の用意をするだけでなく、親の分まで作り、食べさせてやり、学校を休んで生活の見とどまりまでしていました。

当初、まだ小学二年生だった彼にとつては大変なことであつただろうし、また、自身で学校への連絡帳に大人の崩し字を真似て

「熱がまだあるので学校を休ませます」と、書かなくてはならなかった時などどんな思いでいたのか、図り知れません。

彼にとつて他の選択肢はなく、自

分で抱えるしかなかったのでしょうか、がよく逃げずに抱えていたなあと、しみじみ思うのです。

そんな大変な思いをしなが生活していたにもかかわらず、とても素直で、優しい憲一です。

「歯磨きしたことなかった。」

と言う彼の歯は、カルデラ湖のような状態で驚かされましたが、医学の進歩は著しく、半年もかかりましたが、そんな歯でもきちんと治療してもらいました。

そんな風に、これまでの生活の点検とその始末のような暮らしが続いていたある日、ぼつりと

「ここは安心して眠れるからいい。」と、言いました。

「そうか、そう言ってもらえると嬉しいよ。大変だったんだね。」

と、答えるのが精一杯の私でした。本当だったら、何も考えないで眠りたいから眠る、そんな年齢だろうと思

います。それが、自分が眠っている間に、親がどうにか頑張ってしまつたらどうしよう、と小さな心に責任を背負っていたのです。

抱っこされるべき時に抱っこされ、愛

されるべき時に愛され、かばわれるべき時にかばわれ、そうしてはじめて離れるべき時に離れるののだろ

うと思います。憲一のように庇われるべき時に庇われず、逆に親を庇わなければならなかった子どもたちは、自立の時、どうなってしまうのでしょうか。

「どうせ駄目だよ。」と、よく言っていた憲一ですが、多くの人々の協力で、少しずつ得意なことを評価され、自信がついてきました。「どうせ」は、聞かれなくなりました。

「もっとましな生活がしたい。」

これは児童相談所の一時保護所で憲一が漏らした言葉です。

こんな切実な言葉が小学二年生から発せられるなんて……

憲一が、これまでの自分を、そしてこれからの自分を真っ直ぐに見つめ、受け入れ、親を対象化して乗り越えて、身の丈に合った生活ができるようになる日がきつと来るように願っています。

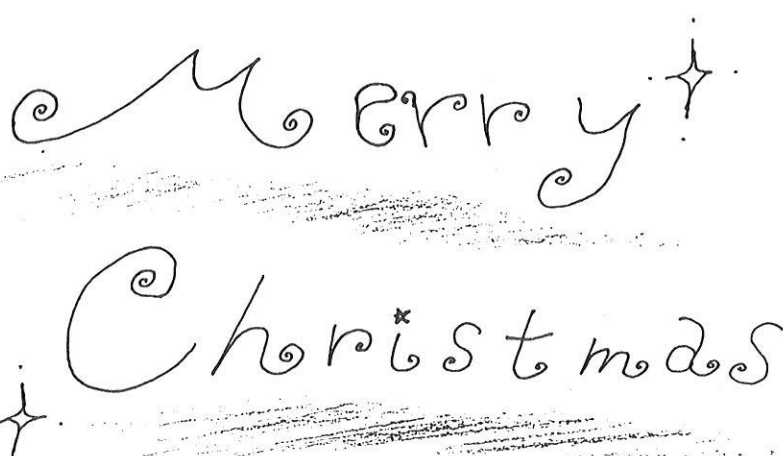
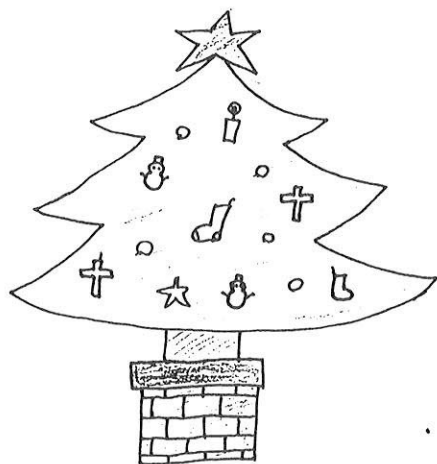
寒い冬の夜、喜びの赤い星を信じ、ただそれだけを探し、追い求めながら旅をした三人の東方の博士。皆さんにとつての赤い星は、何ですか？

メリークリスマス！



時に抱っこされ、愛





日誌抄 = 子どもと創る暮らしの風景 =

8月1日 ▶ 9月末日

8月

幼児7名 小学生7名 中学生6名 高校生9名  
年齢超過1名 措置外1名

- 1日 お盆帰省の実現に向けて家庭訪問を継続
- 4日 一時保護中の香月由子入所 仙道家池田保育士担当
- 6日 小学生グループ小海町谷本画伯のアトリエをベースに天狗岳登頂に挑戦 7日成功する 谷本先生に感謝
- 11日 この日からお盆帰省できない子どもたち十二名と職員が湯河原の海へ三泊四日 府川勝臣ご夫妻 黛執戸部喜久雄各氏などのご厚意で ありがとう!
- 14日 菅野クリニック院長菅野圭樹先生が往診 十二名の子どもたちの診療と担当者などの関わりのスーパーヴァイズ 朝から夜九時まで
- 20日 東大宮教会教会学校中高科夏期学校
- 25日 聖学院大学ワークキャンプ 毎週の学習指導に加えての構内整備のボランティア ありがとう!
- 29日 江森ヘヤースalon散髪ご奉仕 二学期に備えが 感謝
- 30日 さよなら夏休み大パーティ 後援会の土台形成に力を尽くしてお支え下さった金子嘉男前後援会長と針ヶ谷廣副会長に感謝する会も

今月の物品ご寄贈者 栗橋町割烹萬屋 栗田紀子 戸石幸男 福島県丹羽倫己 横浜市くるみ学園 東京都松岡享子 群馬県子持山学園 森山登美子の各位様

9月

- 1日 第2学期始まる
- 4日 自立支援計画票の見直し開始 子どもたちの成長を確認しながら 関わりの修正など
- 9日 高校生の社会的自立を促すための中高生との話し合いを 全職員と 全力で 感動の夕べ
- 14日 高校2年生女子の緊急一時保護 全的な依存もできず目標もない漂流する思春期の子どもたちの典型を突きつけられた5日間
- 22日 加須市更生保護委員会見学と研修に来訪 子どもたちが映し出す現代社会の縮図と対応のあり方について熱心な討議が お励ましをお受けして
- 27日 北海道美深育成園の保育士が宿泊研修に
- 29日 竹花信恵主任保育士カナダへの研修への壮行会 楽しくそして激励も
- 30日 竹花信恵資生堂海外研修のためにカナダへ  
○ 大利根中学校体育祭 懸命に走り 全力で跳び 華麗に舞う若い魂と力のまつりに感動のひととき

今月の物品ご寄贈者 関東商事 堀切京子 平川邦子 加須市梅沢三保 黒川正美 大利根町江森藤男 本宮隆 樋口 大利根藤幼稚園 青森県金子光代 妹尾トヨ子 須田あや子 東京都鈴木重義 株式会社オキナ 栃木県荒巻幸子 岡田毅の各位様  
たくさんのお支えをお受けして素敵な夏でした。(くら)

/// ———— 反 射 光 ———— ///

☆クリスマスの祝福が、何よりも先ず貧しく小さく弱き者たちに豊かにあれかしと祈ります☆そのためにこそ馬小屋に神の子が降誕されたのだと心から信じます☆それにしてもこの世紀は強いものが正義だと驕慢に振る舞い弱い者たちを痛めつけ我が儘放題の犠牲にして省みなかった世紀だったと思います☆もちろんその片棒を担いできた者としてはらわた痛みを担いでもうあります☆子どもたちがここにいてはじめて成り立つ生活の中にイエスがお生まれになる☆希望も愛も平和も喜びも経験することのなかった子どもたちが最も豊かな優しさに満ちている驚きを今年もまたクリスマスに確認させられる☆馬小屋のような自らの存在を照らし輝く子どもたちの光はなぜだと怖じ惑う時、鮮やかに啓示される純白のイエスの生涯☆この乱暴な世紀を閉じて、今度こそ子どもたちの世紀を創り上げる決意をもう一度固く! ☆隠れた良い業のみな様の上にこそクリスマスの祝福が豊かにありますように!

(哲)